1. 題材 「自分のだ液で消化の実験をしよう」

- 2. 目標
- 3. 指導計画(全30分)

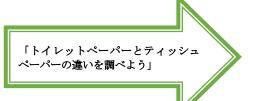
指導内容	体験方法の留意点
1、場所の指定。実験上の注意。	1、立ったまま状態も可。見える位置に。
2 木時の理題をつかむ	

「だ液で、デンプンが分解したことをヨウ素液で確かめよう。」

- 3、ヨウ素液は、デンプンを青色に変化させることを演示する。
- 4、実験の手順を説明する。
 - ①2つのビニル袋を準備する。黒ペンで、片方に、だ液と描かせる。
 - ② 2 枚のろ紙のうち、片方を口に含み、だ液(つば)をしみこませる。
 - ③だ液と描いた袋に、だ液の付いたろ紙をいれる。
 - ④もう一方には、ろ紙をそのまま入れる。
 - ⑤両方に、ビーカーのデンプン液をプラピペット2回分を入れる。
 - ⑥両方のジップを指で押さえて、閉じる。液が 漏れないように。
 - (7)両方の袋を手のひらであたためる。
- 5、=あたためている間に、別の実験を行う。=
 - ⑧両方の袋に、ヨウ素液を3滴入れる。
 - ⑨袋の中の色の変化から、だ液の方のデンプンが無くなったことをしる。
- 6、片付ける。準備したバットごと、後ろのテーブ ルに移動させる。【3分】

- 2、体験を重視したいので、説明は、必要最小限留める。
 - ★口に含んだろ紙は、かんだりしないで、つばをしみこませるだけにする。

★袋の口を押し開きながら、デンプン液をいれる。難しいときは、手伝ってもらう。



- ★はじめの演示を思い出す ョウ素液は、デ ンプンに反応して、青くなる。
- ★だ液の方にデンプンが無くなったことをし るが、何に変化したかは、分からない。
- 3、指示にしたがって、片づける。

参考: